



三期目の抱負

黒田市長が描く
これからの平戸市の展望

11月8日、市議会議場において、職員に三期目の訓示を行う黒田市長。力強くこれからの展望を語った。

「平戸市未来創造羅針盤」
この旗印のもと
さまざまな政策を実践する

三期目の当選を果たした黒田市長。「未来を見据え、さまざまな政策を実践する」

ふるさと平戸の活性化を

私は、10月15日に告示されました市長選挙におきまして、三期目の当選をさせて頂いたことができました。これまでもこれまで二期8年間における市民の皆さまのご理解とご協力、また市政執行の実績が評価された表れであり、この勢いをもつてさらに「ふるさと平戸の活性化を実現してほしい」という幅広い期待と信任であろうと思っています。

そのためにも平成30年度か

ら向こう10年間のまちづくりの指針となる、第二次平戸市総合計画を「平戸市未来創造羅針盤」と名づけ、市政施策の最上位に掲げながら、市民の皆さまとともに実践へつなげていくための設計図として活用していきます。ここでは、重要課題から浮かび上がる5つの理念をご紹介します。

1. 未来の羅針盤となる人をつくる

あらゆる施策は行政が条例

要です。「誰かにまかせっきり」とか「そのうち検討する」という姿勢では方向を見失ってしまいかねません。

そして改革はいいつの時代も痛みが伴います。決して現状に甘んじることなく、過去を振り返りながら、未来を見据えて「今なにができるか」という使命感に基づいて改革マインドを胸に刻み続けながら前進します。

次世代に誇れる平戸を作る

この5つの理念を常に意識し、これまで以上に市民の皆さまと対話する機会を増やしていきたいと思っています。

そして、これまで述べてきた総合計画の理念と、私自身の政治姿勢をここに改めて明らかにするとともに、これまで以上に市民協働のまちづくりを進めることによって、数々の政策課題をクリアし、次代に誇れる平戸市建設に全身全霊を傾けてまいりますことを三期目の節目に当たって改めてここに宣言します。

5つの理念を元に、次世代に誇れるまちづくりを進める

や予算を整備し遂行されますが、ここで不可欠なのは、その施策を誰が、誰と組んで実施するかということです。この担い手となる「人材」が重要なのです。

すでに生涯学習都市宣言をしている本市は、地域やあらゆる組織の中で育まれた人材が、それぞれのリーダーとしてさらなる牽引力をもって羽ばたくことができる環境を整備していきます。

2. まちの灯台を灯す絆を紡ぐ

地域コミュニティにおける個々人の絆をより強固なものにすると同時に、平戸へ心を寄せてくださるボランティアなどの応援団や、ふるさと納税の寄附をしてくださる市外居住者、そして平戸市とともに事業を展開している、あるいは今後パートナーになりうる事業者の人たちとの連携をより強化していきます。

いつの時代も次のステージに進化していくためには、新し

い視点やエネルギーが不可欠です。そうした外部の仲間との絆をより強めます。

3. 魅力を描いた帆をあげる

計画を立案し、施策や予算を用意しても、それらが市民の皆さまの賛同を得られなければ「絵に描いた餅」になります。「魅力ある」ということは、誰もが賛同し力を結集できるシンボルとならなければ意味がないということです。

そして、誰もが目にしたその帆が風というエネルギーを蓄え、目指すべき目標に向かう原動力にしていくためには「魅力」という「惹きつける風」つまり「時代のトレンド」を察知しながら、平戸市の潜在力（ポテンシャル）や可能性と照らし合わせ、これを磨き上げていくことでさらなる推進力を増していくことが重要です。

4. 強く漕ぎだす産業をつくる

このことは船に例えれば「工

ンジン」という動力部分ですから、最も重要な内容です。いくら人が集まっても、そこに産業があり生活を支える基盤が存在しなければ永続的なものにはなりません。

5. 自ら経営の舵を切る

船はひとたび港を離れると、自らの動力に加え風向きや潮流によって進んでいきますが、絶えずその方向性をチェックし気象条件や航路の確認をしていかなければ船は難破します。

絶えず計画遂行に関して細心の注意を払いながら、しかるべき時に軌道修正を行うなど、進捗管理や速度調整が必